

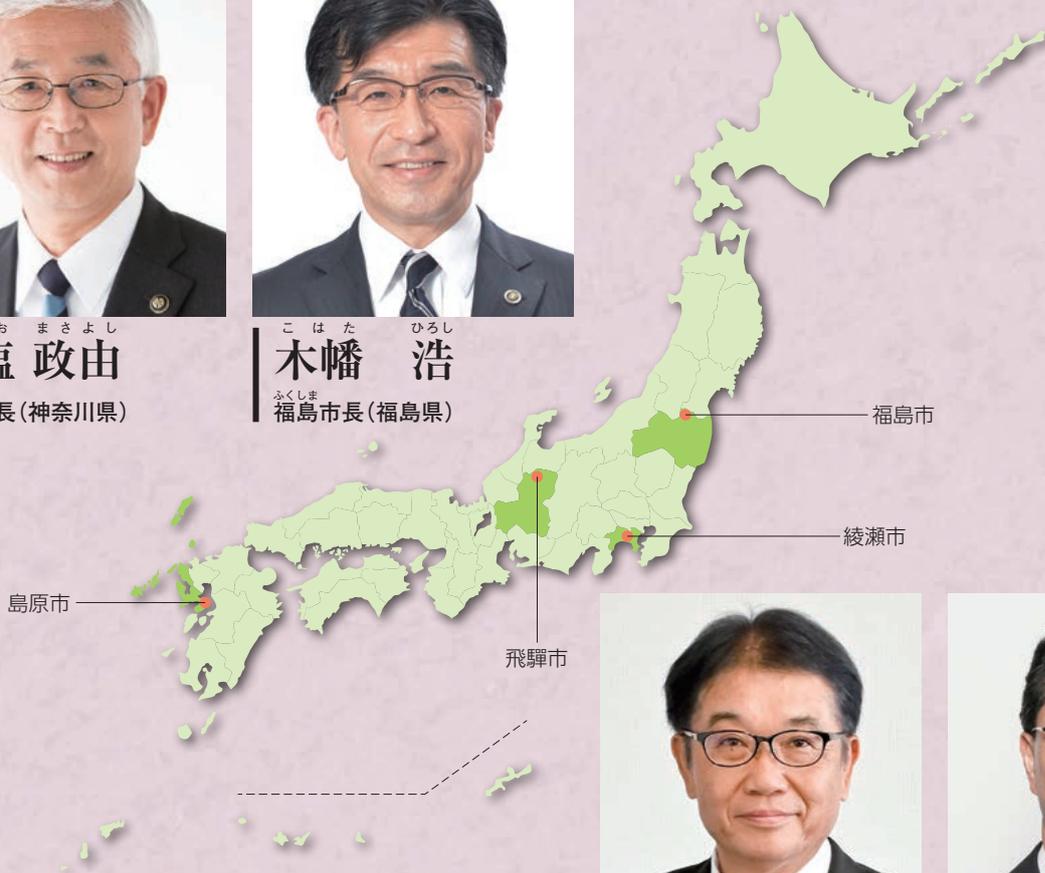
# ロケ誘致で引き出す「地域の魅力」 ～映像作品の力でまちを元気に～



こしお まさよし  
**古塩 政由**  
あやせ  
綾瀬市長(神奈川県)



こはた ひろし  
**木幡 浩**  
ふくしま  
福島市長(福島県)



島原市

飛驒市

福島市

綾瀬市

司会・コーディネーター

ふじい  
**藤井 さやか**  
筑波大学准教授



ふるかわ りゅうざぶろう  
**古川 隆三郎**  
しまばら  
島原市長(長崎県)



つづく じゅんや  
**都竹 淳也**  
ひだ  
飛驒市長(岐阜県)

映画やテレビドラマなどのロケ誘致・支援などを通して、まちの知名度向上や地域振興を図る取り組みが全国各地で活発に進められています。特に近年はロケによる直接的な経済効果だけでなく、完成した映画やドラマの作品を通じて、観光振興につながる「ロケツーリズム」が注目されているほか、地域の魅力再発見やシビックプライド醸成など、地域住民に対する効果も表れています。

座談会では、地域活性化を目指して、ロケ誘致・支援やロケツーリズムを活発に進める木幡・福島市長、古塩・綾瀬市長、都竹・飛驒市長、古川・島原市長にお集まりいただき、各都市のこれまでの活動や実績、取り組みの推進による各種効果、広域連携の必要性などについて幅広くお話しいただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)



「世界にエールを送るまち」  
として、ロケツアーリズムも  
生かしながら、復興の姿を  
発信していきたいですね。

木幡 浩  
福島市長(福島県)

## 全国各地で進展する ロケ誘致・支援の取り組み

藤井 コロナ禍にあっても多くの自治体が感染  
予防対策を徹底しながら、ロケの誘致・支援や、  
ロケを生かした観光振興に取り組んでいらっ  
しゃいます。それでは、まず各都市のこれま  
での取り組み内容についてお話しいただきたいと  
思います。

木幡 福島市では、周防正行監督の映画『カッ  
ベン』の舞台地となり、ロケ支援を行ったこと  
を契機に、ロケツアーリズムに積極的に取り組む  
ようになりました。福島市出身の作曲家・古関  
裕而をモデルにした連続テレビ小説『エール』の  
放送が平成31年に決定し、令和元年には、地域  
を挙げたロケ受け入れの体制整備のため、官民  
組織の「福島市ロケツアーリズム推進会議」を設  
立。その下部組織である実働部隊「情熱ロケ応  
援隊ふくしま」を中心に、ロケ誘致・支援を進  
めています。

福島市のロケツアーリズムには特徴がありま  
す。福島市が誇る地域資源にロケを呼び込み、  
付加価値の向上を目指すだけでなく、関連のま  
ちづくりを展開し、さらなる誘客や地域振興を  
図るというものです。

『エール』においても同様です。半年間の放送  
で地域全体が盛り上がった後には、市の文化資  
源である「音楽」に光を当てながら、「古関裕而  
を活かしたまちづくり」を推進しました。車内  
外で古関メロディーが楽しめる「メロディーバ  
ス」の運行、ボタンを押すと古関メロディーを  
聴くことができる「メロディーボックス」の設  
置、『エール』のドラマセットの展示など、地域  
を挙げてさまざまな取り組みを進めた結果、「福  
島市古関裕而記念館」の来館者は放送後の1年  
間で2・4倍に増加、この間の観光消費も8億  
円超と分析されるなど、大きな成果が出まし  
た。近年はロケに関する問い合わせも増え、映  
画、ドラマ、情報番組など、さまざまなジャン  
ルのロケを誘致し支援しています。

古塩 綾瀬市にはこれといった観光名所はあり  
ません。にもかかわらず、着実にロケの誘致が

進展し、今や「ロケのまち」として、市の知名度  
も上がってきました。背景にあるのは、都心か  
らの交通アクセスの良さと、官民一体での手厚  
いロケ支援です。平成26年にはロケの支援・誘  
致を行う機関として「綾瀬ロケーションサービ  
ス」を設置するとともに、翌年には市内の関係  
機関相互の連携と協力体制を整えるため、「綾  
瀬ロケーションサービス推進協議会」を立ち上  
げるなど、強固な支援体制を構築して、ロケを  
サポートしています。

市内の撮影場所にロケ地看板を設置し、ロケ  
地ツアーを開催するなど、ロケを生かした観光  
振興にも力を入れています。綾瀬市に向かう東  
名高速道路の陸橋にも「ロケ地で楽しめるまち



発着時や走行中に古関メロディーが流れる「メロディーバス」(福島市)

交通アクセスの良さと  
官民一体でのロケ支援を土台に  
さらにロケ誘致を進め  
本市ならではのロケツーリズムを  
展開していきます。



古塩 政由  
綾瀬市長(神奈川県)

綾瀬市」と記した横断幕を掲げ、まちをPRしているところ。また、平成30年には綾瀬市を舞台にした短編映画『ルーツ』を制作し、全国各地の映画祭で高い評価を得ました。綾瀬市ではこの作品を観光事業に活用するとともに、作品のDVDを市民や自治会などに広く貸し出すなどして、郷土愛やシビックプライドの醸成に努めています。

ロケの受け入れを始めてからおおよそ8年間で撮影実績は約150件。着実に実績を積んでこられたのも、ひとえに「綾瀬ロケーションサービス」のメンバーはもとより、市民、事業所、関係者など、多くの方々の協力があったからこそです。こうした支援体制の下、現在、綾瀬市では、魅力的な作品の一層の誘致と、ファンを取り込んだロケツーリズムの推進に取り組んでいるところ。です。

都竹 飛驒市は平成28年8月に公開された長編アニメ映画『君の名は。』のモデル地となった都市です。同作の記録的ヒットで、いわゆる「聖地巡礼」ブームが起こり、市内には多くのファンが押し寄せましたが、私たちがこの作品の存在を知ったのはまさに公開直前の時期。そこから、急きよポスターを制作したのを皮切りに、パネル展の開催やオリジナルグッズ製作によるプレゼント企画事業の実施、さらにはSNSを活用した情報発信など、さまざまな誘客施策やプロモーション活動を進めました。同時に、作中に登場する有名シーンで写真を撮りやすいよう、場所を整備したり、作品の重要な場面が出てくる組紐くみひもづくりの体験プログラムを用意するなど、来訪されるファンの満足度を高める取り組みも行いました。

当初はこのブームで訪れた人の波をどう維持するかに腐心していましたが、継続的にロケを誘致し、その都度新たな誘客につなげることが『君の名は。』で得た経験を生かすことにつながると発想を転換。本格的にロケツーリズムを推進することにしました。

制作会社が集中する首都圏から離れているので、当初はなかなか実績を上げられませんでした。



東名高速道路をまたぐ陸橋に掲げられるPR横断幕(綾瀬市)

だが、ふるさと納税制度を活用した映像製作費支援の助成金など、制作者への手厚い支援制度を用意しながら、粘り強くロケ誘致活動を展開した結果、昨年ぐらいいからロケの件数も大幅に増えてきました。現在は、ロケツーリズム協議会で学んだ権利処理の仕方なども生かして、誘客につなげるためのPR活動を精力的に進めています。

古川 鳥原市は面積が83km<sup>2</sup>の比較的小さなまちですが、有明海、雲仙普賢岳、鳥原温泉、豊富な湧水、そして歴史ある城下町など、撮影素材がコンパクトにまとまった地域です。過去をさかのぼると『男はつらいよ』をはじめ、数々のロケ実績がありますが、それをまちおこしや経済



ロケツーリズムの目的は  
地域コンテンツを掘り起こし  
評価を得ることで  
市民が地域に誇りを  
得ることにあります。

都竹 淳也  
飛驒市長(岐阜県)

活動につなげることが十分にできていなかったと考えていた矢先、ロケツーリズム協議会の存在を知り、平成31年に加盟しました。以来、ロケツーリズムのノウハウの習得、市民向けセミナーの開催、専門組織の立ち上げなどを進めるとともに、映像製作者へのトップセールス、映像製作者を招聘するロケハンツアアの開催など、懸命に売り込みをかけた結果、コロナ禍でありながら

から昨年1年間のロケ実績は18件と前年よりも大幅増を実現。広告換算効果も15億5000万円に達するなど、大きな成果が出ています。また、テレビ放映などで全国の注目を得ることで、ふるさと納税の寄附額も右肩上がりが増えていきます。

地域も大いに湧いています。島原独自のスイーツ(かんざらし)をテーマにしたテレビドラマ『かんざらしに恋して』が放映されたことで、物語のモデルとなった店舗には人が殺到しています。また、テレビCM『ギリソレモン無糖』の舞台となった島原鉄道の「大三東駅」(日本一海に近いと言われている無人駅)には、連日、多くの人が押し寄せるようになりました。市としてはさらに交流人口を増やすため、ロケ地看板の設置やロケ地マップの制作など、誘客促進に向けた取り組みも進めています。

### 地域に対する市民の誇りを高める

藤井 各地でロケ誘致・支援が活発に進められていること、興味深くお聞きしました。ロケが観光振興や地域経済に大きな効果をもたらすことは分かりましたが、他にどのような効果が表れているのか。改めてお聞きしたいと思います。  
古塩 市民が地域に誇りを持つようになったことも大きな効果です。先ほども申し上げたように、綾瀬市には特別な景観はありません。田んぼや畑、工場群、住宅地など、ありふれた風景ばかりですが、そうした風景が映像作品に取り上げられるようになるにつれて、市民の皆さんも自分たちが住む地域や暮らしの価値を再発見するようになりました。

木幡 福島市にも日本の桃源郷と称される「花



地域住民も参画したまちなかでの撮影風景(飛驒市)

見山」をはじめ、風光明媚な観光資源が豊富にあります。必ずしもそうした資源ばかりがロケの対象になるわけではありません。むしろ市民にとっては見慣れた、何気ない景色の方が人々の関心を引き付ける場合もあります。その意味では、ロケは市民自身が気付いていないまじの個性や特色に気付かせてくれる効果もあると思います。先ほどもご紹介したように、福島市では、『エール』の放送をきっかけに、福島が誇る地域文化として「音楽」に光が当たり、それを生かしたまちづくりを展開するようになりました。

古川 映像製作者がロケ地に求めるのは、その地域ならではの風景です。島原市であれば、市

ロケをきっかけに  
島原市のファンを増やし  
交流人口の拡大、さらには  
移住者増にまでつなげたい。



古川 隆三郎  
島原市長(長崎県)

街地に湧き出る湧水をペットボトルを手に汲みに来る市民の姿や、海沿いを走る黄色い一両列車の情景。私たちにとっては日常的な風景ですが、そのような素朴な風景こそ、人々の感動を呼ぶし、また市民に地域の良さを再認識させてくれると思います。

実際、島原市の景色が映画やテレビなどで取り上げられることを一番喜んでいるのは市民や出身者の皆さんです。今はコロナ禍で帰省でき

ない方も少なくありませんが、テレビで島原の風景を目の当たりにして、ふるさとへの思いを強くされる方も数多くいらっしゃいます。

都竹 ロケツーリズムの最大の目的は地域のコンテンツを掘り起こし、外部からの評価を得ることで、市民が地域に誇りを得ることにあると思います。実際、地域の日常の風景が映像に取り上げられると、市民の皆さんががちに自信を持つようになるんですよ。このシビックプライドの醸成こそが、地域活性化の鍵であり、持続可能な地域として発展し続ける原動力になると思います。

ロケ誘致を生かして、  
外から人を呼び込む

藤井 ロケ誘致の実績を生かして、どのようなまちづくりを進められていくのか、今後の展望を含めてお聞かせください。

都竹 『君の名は。』の効果の一つは、飛驒市に心を寄せる方々の存在がはっきりと分かったことです。当初は作品のファンとして飛驒市を訪れた観光客にも、住民と交流を重ねるうちに飛驒市のファンになって、リピーターになる方が大勢いらっしゃいます。飛驒市ではそうした方々とつながりを持ち続けるために「飛驒市ファンクラブ」を立ち上げたところ、この5年間で会員数は約9000人にまで増えました。作品をきっかけに、関係人口が急増したのです。さらに、飛驒市ではこの関係人口と地域課題を結び仕組みとして「ヒダスケー——飛驒市関係案内所——」も設立。今や多くの飛驒市ファンがまちづくりの担い手として、地域の課題解決のプロジェクトに参画いただけるようになりま



何も無い無人駅からロケ効果で人気スポットになった島原鉄道「大三東駅」(島原市)

した。今後も継続的に関係人口を生かしたまちづくりを進めていきたいと考えています。

古塩 綾瀬市は高度成長期以来、着実に人口が増え続けてきましたが、全国的な人口減少下では、これ以上の人口増は望めません。その中でまちの活力を維持するためには、交流人口を拡大する必要がありそうです。その意味でも、ロケツーリズムは重要です。

これまでは首都圏に位置する好立地と、手厚いロケサービスで、ロケ誘致は着実に進展してきましたが、綾瀬市には元来、充実した観光基盤や商業基盤があるわけではありません。ロケ誘致は進んでも、それを十分に域内消費に結び付けられていないのが現状です。今後は、市民



藤井 さやか  
筑波大学准教授

の協力も得ながら、地域一丸となって観光・商業分野の基盤整備に取り組み、さらなる地域経済の活性化につなげていきたいと思えます。

**古川** 対外的な意味では、ロケはあくまでも島原市を知ってもらうためのきっかけに過ぎません。島原市のファンを増やし、交流人口の拡大、さらには移住・定住者の大幅な増加にまでつなげたいと考えています。

実際、コロナ禍の中で、観光業を中心に大きな影響を受けているものの、逆に、地方の魅力が見直され、地方への移住者も増えています。島原市でも築170年の古民家を改修したワーケーションの拠点整備を進めるなど、新たな施策を進めています。

やがてはコロナは収束し、インバウンド需要も戻るでしょう。そうした状況にもしっかりと対応できるように、ロケツーリズムの一層の推進とともに、体験型観光のコンテンツ整備や、移住・定住の促進策などを充実させていきたいと思えます。

**木幡** 東日本大震災に伴う原発事故によって、福島市はさまざまな風評の影響を受け、「フクシマ」の名前はネガティブな印象で、世界中に

知れ渡ってしまいました。その名を持つ福島市も世界中からご支援をいただき、着実に復興の道を歩んでいます。今後は「世界にエールを送るまち」として、ロケツーリズムも展開しながら、福島市の復興の姿、ポジティブな面を世界に発信していきたいと考えています。

**ロケツーリズムの首長連合の発足に向けて**

**都竹** 今後を考えると、ロケツーリズムを進める全国の自治体同士で連携することも重要になってきます。岐阜県内では既に14自治体が連携して「ぎふロケツーリズム協議会」を設立し、互いに情報交換したり、市域を越えてロケ地を制作者に紹介し合うなど、連携効果が表れています。国や関係機関に効果的に働き掛けを行うためにも、ぜひ、ロケツーリズムの首長連合をつくりたいですね。

**木幡** 福島市でも連続テレビ小説の舞台となった気仙沼市・登米市（いずれも『おかえりモネ』）、久慈市（『あまちゃん』）と連携して、観光、移住・定住に関する情報の発信やお土産品の販売を行う「情報ステーション おかえり館」を東京都内にオープンしました。さらに、『エール』のモデルとなった古閑裕而の妻・金子のふるさとである豊橋市とも民間ベースで交流が深まるなど、福島市でもロケをきっかけとした広域連携が進んでいます。

**古川** 島原市でも、ロケツーリズム協議会で共に活動する茂原市、千曲市、幸田町と連携し、それぞれの地域をロケ地とした映画『今はちょっと、ついてないだけ』の製作に協力しており、作品は今年の4月に全国公開される予定です。各自治体が連携することで、それぞれの知名度



（令和4年1月28日、WEB会議形式にて開催）  
本コーナーは隔月掲載となります。次回は5月号に掲載予定です。

も上がりますし、活性化の可能性も広がります。ぜひ、各都市と力を合わせて、ロケツーリズムを一層推進したいですね。

**古塩** 綾瀬市ではあえて「何もないまち」を前面に出してロケ誘致やロケツーリズムに取り組んできましたが、全国を見渡せば本市と同様、際立った特色がないまちも多くあるはず。そのような都市とも手を携えて、ロケを生かした新しいまちづくりを進めたいと考えています。

**藤井** ロケとは日常では気付きにくい地域の価値を、市民が再発見するきっかけになるものではないか。各市長のお話をお聞きして、改めてその思いを強くしました。また、交流人口はもとより関係人口や移住・定住の拡充にもつながる、最初の入り口としても非常に重要なものだと思います。

今後ロケツーリズムを推進する地域が幅広く連携しながら、地域活性化に向けて、一層活発に取り組むを進められますことを願っています。本日はありがとうございました。